

「2005年夏に富山県の中高英語を受けた桜45の合格体験記」

お世話になった『Fight!!教員採用試験』さまに、ささやかながら合格体験記を贈ります。これから受検される方々のお役に立てれば幸いです。

1. 全体的なことについて

まず、富山県の採用試験は「1次試験から2次試験まで盛りだくさん」だということを知っておいてください。教職教養・専門教養・面接は1次・2次ともに行われます。2次試験に限っても、中高の体育以外の受験者には「体育実技」が課せられます。あれもこれも…という感じですが、気力をもってすれば乗り越えられます。そして、全てを完璧にやろうなんて思わないことです。体を壊してしまいますし、もしそれで採用されても、現場でも完璧を追い求めるあまり、やはり体を壊してしまいます。必ず自分の得意分野があるでしょうから、そこではパーフェクトを目指してください。そういう「要領」は、採用試験においても職員室でも大切なことです。

県教委が、このような盛りだくさんな試験を課す意図は、もしかするとそのようなバランス感覚そして気力を試すことにあるのかもしれませんが。どうか、合格に向けてがんばってください。

2. 過去の対戦成績について

今、この合格体験記を読んでおられる方の多くは、富山県の採用試験を初めて受けられる方（学生さんなど）ではないかと思えます。もしくは、「今年こそは！」という思いで、情報収集にとりかかっておられる社会人または講師の先生方かもしれません。そこで、私の「過去の対戦成績」(笑)をご紹介します。目安にしてください。

受検年	当時の立場	1次試験		2次試験	
		手応え	合否	手応え	合否
2001(H13)	大学生	なし	×	/	
2002(H14)	アルバイト	ややあり	○		
2003(H15)	常勤講師(中学校)	なし	×	/	
2004(H16)	常勤講師(中学校)	なし	×		
2005(H17)	非常勤講師(中学校)	あり	○	ややあり	○

※すべて「富山県・中学高校・英語」による受検です。

ご覧のように、5度の受検を通して分かることは、「やった分だけ結果がついてくる」という至って簡単な関係が見えてくることです。そして、注目したいのは当時の立場。中学校で講師をするということは、もれなく「部活動顧問」がついてくるということです。週末の練習や大会によって、勉強時間はとれませんから、他の時間を何とかして確保しなければなりません。そして、「担任」になることもあります。道徳・学級活動・給食指導・保護者との連携、通知表と指導要録の作成を背負うのは重たいものです。私は、この「顧問」と「担任」の厳しさと楽しさにはまってしまいました。もはや、講師といえども他の教員とほとんど違いの無い職務内容に、錯覚すらおぼえました。

しかし、担任をしても悲しいかな講師は基本的には「1年間の契約講師＝臨時的任用講師」。2年、3年と持ちあがれることは事例としては少ないでしょう。多くの講師は1年で学校を去り、新たな道を探らなくてはなりません。これは、ある程度の年齢になると、とても不安に感じることです。生活がかかってきますから。

そこで、2005年は「講師は講師でも非常勤講師」の道を選びました。学校や自治体の事情によると思いますが、このときの条件は「週5日で29時間、学級担任なし、部活動顧問なし」というものでした。良い点は、週末の勉強時間がとれること。悪い点は、子どもとかかわる時間が激減したこと。…要は、どちらをとるか、という明確な選択を迫られ続けてきたものの、この数年は「子どもとかかわる時間」を優先してきたために、足踏みしていたのです。少々残念ではありますが、将来的にじっくりと子どもとかかわれるために、まず合格することを心に決めました。

3. 試験対策について

私の試験対策は、一般的なことしかしていません。参考書を読む、問題集を解く、作文を添削してもらい、勤務校で面接対策をってもらう…など、基本に忠実に、必要なことをやってきたつもりです。分野ごとにまとめてみます。

(1) 予備校に通ったこと

2005年の4月から7月上旬にかけて、この年初めて開設された東京アカデミーの富山教室（土日コース）に通いました。一般教養・教職教養・作文・面接対策などを細かく見てもらいました。同じ目的をもった人たちとともに勉強できたのは、環境面でも良かったです。毎週土曜日と日曜日の朝から夕方まで授業が入っていますから、予定を空けておく必要があります。私がこの年、非常勤講師の道を選んだのはこのことも視野に入れてのことでした。

ちなみに費用は約20万円かかります。高額ですが、それだけ高い買い物をしたという意識をもって授業を受けることはプラスに働きました。合格したから思えるのでしょうか、予備校に通って良かったと感じています。

(2) 一般教養（1次）

東京アカデミーの参考書とランナー、そしてアカデミーの授業と課題プリントで学習しました。また家庭教師で中学3年生の5教科の受験指導を行っていたので、一般教養の基本は家庭教師の教材研究の中で身につきました。

富山県の一般教養は、高校受験程度の知識をどの教科もまんべんなく網羅していれば、大丈夫だと思います。もちろん、それ以上のものに取り組んでも構いませんが、他にも準備すべき分野（＝教職教養、面接、専門など）のことを忘れてはいけません。

国語は、物語文・説明文の読解を中心に。いわゆる「中教研テスト」のような出題形式です。内容は大人向けの問題です。数学・理科は公式を覚えておきましょう。「食塩の濃度」や「体積・密度・重さ」、「オームの法則」、「解の公式」、「場合の数」などをここ数年見た気がします。詳しい出題傾向については、市販の過去問題集を参照してください。

(3) 教職教養 その1 (1次)

こちら東京アカデミーの参考書とランナー、そしてアカデミーの授業と課題プリントで学習しました。教職教養は、個人的に好きな分野なので、毎年それなりに学習が進んでいて、8割がた頭に入っていました。問題集は、似通った問題も含めてたくさん掲載されているので、とにかく解きまくったらいいです。1冊の問題集でも何百問もの問題が入っていますから、いろいろ買いすぎず、1冊を何度もやったらいいです。そして、問題番号の横にでも、解いた日の日付を書いておきましょう。2回目以降やるとき、その日付を見れば、そのときのことを思い出すかもしれません。

「問題集に取り組んでいるが、さっぱり分からない」と嘆く人をインターネットの掲示板でしばしば見かけます。分からなければ参考書を参照すればいいのです。その面倒を嫌う人は、分からないまま終わります。定着というのは、結構時間のかかる作業です。地道に努力しても、成果が出てくるのは半年後か1年後かになるかもしれません。最終的に5年かかった人もいます。

もし、あなたが学生さんで、ほぼゼロから教職教養を学習しようとするのなら、あきらめずに取り組んでほしいと思います。

(4) 専門教養・英語 (1次・2次)

私が不安だったのは、この専門英語でした。大学時代は、決して真剣に英語を学習したとはいえ暮らしぶりでした。また、中学校の講師をしていると、言語材料の扱い方や表現力を高めるアイデア、すなわち授業力はつきますが、肝心の英語運用能力はというと…。自信をもって語れるものではありません。

対策としては、大学入試の問題集を解きました。長文対策としては、「基礎英語長文問題精講」(旺文社)、文法・語法対策としては、「即戦ゼミ(8)大学入試基礎英語頻出問題総演習」(桐原書店)を使いました。英語教員を目指す方なら、もっともっと高度な問題に触れるのが当然だと思います。私の専門英語の学習は、最低限ギリギリの学習でしたので。

リスニング問題があります。ニュースや天気予報のような実況が流れました。あまり肩肘張らず、大体何を言っているのかを把握しておけば、選択肢は見えてきます。

1次試験の最後の問題で、指導案を書きます。「ある言語材料を扱うにあたっての第何時の展開を様式に従って書け」のような感じです。講師をしている先生なら、訪問研修の指導案を想定して適切に書けると思います。学生さんは、教育実習やアルバイトでの経験をもとに自由に書かれたら良いと思います。余力があれば、指導と評価を関連付けられれば一貫性が出てきます。

(5) 個人面接 その1 (1次)

アカデミーのほうで面接の練習をしてもらいました。実際に教員採用試験の面接官を経験された方による練習でした。回数は1回でしたが、みなさんもいろいろな方に面接練習をしてもらいたいと思います。

講師なら校長先生や教頭先生、学生なら教職の先生に指導をお願いするのは遠慮しがちですが、やはり教員になりたいという強い意志があれば、その情熱も伝わり、快諾してくれるはず。練習ではなるべく厳しく何でも指摘してもらい、自分では気づかない癖なども本番までに直しておきましょう。

面接の基本や質問内容については、市販の対策書にお任せしますが、富山県の場合、質問内容は願書に書いた経歴や志望動機・自己PR文を元に聞かれます。面接を優位に進めたいのであれば、

願書を書く段階から構成を練っておいたほうが得策です。自分の得意分野や聞いてほしい内容を、願書に散りばめておくことは有効かもしれません。

(6) 教職教養 その2 (2次試験)

これは実質論作文です。「生徒指導・学習指導に関すること」についての作文を書きます。この年は「学校の読書活動を活性化するためにはどうすればよいか」というようなテーマでした。

対策としては、なるべく多くの作文を実際書いてみることです。そして、添削してもらいます。友達と読みあうのもいいですし、予備校で添削してもらうのもいいです。講師なら国語の先生に見てもらってもいいでしょう。

私の場合、まったく同じテーマの作文を練習で書いていました。添削も受けて、書き直しもしたので、本番ではそれとほぼ同じ内容で書きました。このときばかりは、「来たー！」と思いました。努力が報われた瞬間です。

当然のことですが、このような課題の作文は、現場での経験があるかないかで内容の深さや現実味に大きな差が出てきます。逆に、現場の経験がある方は、現場で多くのことを吸収しておくべきでしょう。「講師だから…」ということをも盾に、現場での生徒指導に関して本腰を入れない(＝指導しない、できない、協力的でない)などということがあってはなりません。見る人によっては「現場で経験しているのに、これだけのことしか考えられない」と判断されます。

(7) 集団討論 (2次)

8人程度の集団であるテーマについて討論をします。司会は立てませんが、意見を出し合う中で討論が自然に流れていくのが自然で理想的なのでしょう。

まず、大事なことは「自分のはっきりした意見をもつ」ことです。明らかに的外れであったり、人格を疑ったりするような意見は困りますが、必ずしも「右へ倣え」のような画一的な意見でなくてもいいと思います。そして、その後に聞く人を納得させる理由をつけましょう。討論の中で、新しい視点でモノをいうことは重要です。しかも、それは周囲の意見を吟味した上での新たなアイデアであれば、審査官にも印象に残ります。

ときには、他の人の意見に賛同したり、別の視点で述べてみたりすることを試みましょう。そして、人の話をしっかり聞きましょう。納得する部分はよくうなずいて、自分の心に染み渡らせましょう。相手を立てつつも、自己主張を忘れずに。

(8) 個人面接 その2 (2次・模擬授業を含む)

模擬授業を中心に書きます。課題が書かれた用紙を渡され、自由に指導案を考える時間を与えられます。持込物はなしです。講師の先生は、今まで工夫してこられた授業を思い出してください。「導入」か「展開」か「まとめ」かという場面の指定があるかもしれません。私は「導入」の授業をすることになりました。課題用紙には、2人の電話の会話が10行ほど書かれていました。それを使って、導入をやってみろ、ということです。

中学1年生・3学期を想定しました。(以下の活動はオールイングリッシュです)

まず今日のテーマが「電話」ということで、黒板に黒電話の絵を書きました。
それが何であるかをたずね、次は最新の携帯電話の絵を書きました。

それが何かをたずねました。

そして、今日私たちが学習するテーマは何かをたずねました。

何人かの生徒に、携帯電話を持っているかとたずねました。

また、何人かの生徒に両親や兄弟は携帯電話を持っているかとたずねました。

また、携帯電話をもちたいかとたずねました。

ここで時間切れ。たった10分でしたが、導入としてレビュー中心に対話を行いました。1年生の3学期ということで、”What’s this?”, ”Do you ~?”, ”Does your ~?” の質問と答え方のおさらい。ちなみにこの後は、生徒同士で同じ活動をさせるつもりでした。ということで、課題用紙に載っていた会話文には一切触れず10分間の模擬授業を行いました。

対策として、英語の先生（外国専門学校の先生1名、県庁の国際交流課に出向している先生1名…つまりベテランの先生です）に授業を見てもらいました。そのときに言われたことがあります。

- ・ 基本文を板書して始める授業は絶対にしてはならない。
- ・ 意味の無いロールプレイングは最も嫌われる活動である。

この2つを意識して、また私自身は平易な言い回しでもいいから、「オールイングリッシュ」「英語でほめる」ことを本番でやってみたつもりです。

(9) 体育実技 (2次)

種目は、ジグザグドリブル、縄跳びを跳びながらランニング、伸膝後転の3つ。

伸膝後転は初めはできなかったので練習しました。インターネットで検索すると、やり方のコツが見つかります。できない人はできるようになるまで練習しましょう。できないまま本番を迎えたとしても、逃げ出さずに正面から立ち向かいましょう。練習の成果を審査官に見せればいいのです。(もちろんできるに越したことはありませんが。)

実技も大事ですが、礼儀も大事に。大きな声で初めの挨拶「お願いします」や最後に「ありがとうございました」は基本、私服では当たり前の「シャツ出し」は、(教師であっても)中学校では御法度です。体育実技の試験で何を測るのかは不明です。しかし、その種目ができるか否かだけを見ているようには思えません。

(10) MMPI 人格検査 (2次)

ミネソタ多面的人格目録(Minnesota Multiphasic Personality Inventory)だそうです。550項目の質問にそれぞれ「そう」「ちがう」「どちらでもない」のいずれかで答えます。心気症、ヒステリー、うつ、精神病的偏倚、パラノイア、精神衰弱、精神分裂病、軽躁病の各傾向を測定する臨床尺度に加え、回答者の検査に対する態度を測る妥当性尺度が備わっており、嘘やでたらめを書くと見破れる仕組みになっているので、結果が信頼できるかどうかを知ることができるということです。

質問の数がべらぼうに多いので、途中で嫌になります。根気強く取り組む必要があります。一応、インターネット上で検査を試すことができますが、この検査は練習をしてどうなる、というものではありません。質問にしたがって正直に答えれば、それでいいのだと思います。

5. 最後に、ここまで読んでくださった方へ

ご苦勞様でした。こんな文章に最後まで付き合いくださるほどの根氣がある方であれば、富山の採用試験も乗り越えられると思います。困ったことがあれば、いつでもメールをください。ここには書けなかったことも含めて紹介したいと思います。どうか、合格に向けてがんばってください。希望に満ち溢れた富山の子どもたちの未来を、ともに切り拓いていきましょう。

『Fight!!教員採用試験』の管理者・岩崎さん、貴サイトの存在を知ったとき私はまだ大学生。気がつけば早6年が経ちます。ここで多くの仲間と出会い、夢を語りました。なるべく多くの方に、私と同じ喜びを味わってもらえれば、と思います。ここまでのところ、ありがとうございました。

桜45

masato_san02@yahoo.co.jp